

熊澤忠躬パスト・ガバナーを 偲んで

2010~2011年度IM第3組
ガバナー補佐 西原房三(守口RC)

2012年2月9日、多くのロータリアンから敬愛された熊澤PGが、86歳の生涯を終えられました。

1993年守口RCからガバナーを出す事が決定的となり、熊澤先生が苦渋の決断だったと思いますが、引受けられました。当時のG事務所は弁天町にありガバナーが代わると一代毎に事務局も代わるので、守口RCの事務員が出向しました。

地区代表幹事になられた小西豊和氏、1994年当時会長の私共々、全会員にとって初めての経験でしたが、一丸となって勉強しサポートしました。この時ほどクラブ全体が盛り上がった事はありません。

熊澤PGは地区の予算編成他諸問題を的確に把握され改善に努められ、阪神淡路大震災では震災遺児里親制度を立ち上げられました。

1986年会長時、10数名の第5次守口RCフィリピンネグロス島医療奉仕団団長として行かれ、当時まだゲリラ活動の活発な地域でしたが、無事大任を果たされました。

同年、比国アキノ大統領来日歓迎午餐会に日比友好功労者の一人として当時の中曽根康弘首相より官邸に招かれた事が新聞に報道されました。

PGになられてからは、一ロータリアンに徹し会員間の調和に気配りされ、例会でも酒席でも気さくな先輩として全会員に慕われる存在でした。熊澤PGに一番身近におられた小西豊和地区代表幹事に思い出をお聞きしましたところ、熊澤PGは医学者であると同時に政治家と経営者の素質を兼備されている方でした。氏は陸軍士官学校卒だけあって抜群の統率力を持たれていました。趣味のゴルフ、読書、麻雀、又嗜好は酒、タバコで、小料理屋のカウンターに座り、杯を重ねる程にタバコをふかしながら、呵々大笑いする氏は周囲に楽しい雰囲気醸し出されていた様子が今でも目に浮かびます。又、考えついた事はすぐに発表し、且つ行動される方で、財政困難であった地区会計を一に増強、二に増強と拡大に努め、次期に引き継ぎの時には多大な繰越金を残し財政の基盤を立て直したのは熊澤Gの獅子奮迅の働きぶりを如実に物語っています。走り出したら止まらないガバナーに暴れん坊将軍と名付けておりました。まさに巨星墜つる感に胸の痛みを覚えていますと、語ってくれました。

熊澤PG、安らかにお眠り下さい。

熊澤忠躬会員

生年月日	1925年8月10日
学歴	1950年3月 京都大学医学部卒業 1957年10月 医学博士授与
職歴	1951年11月 京都大学医学部耳鼻咽喉科学教室助手 1956年5月 高知市民病院耳鼻咽喉科部長 1958年4月 関西医科大学耳鼻咽喉科学教室助教授 1967年8月~1968年12月 西独ヴェルツブルグ大学ヘアレキサンダーフンボルト 奨学生として講師待遇にて留学 1972年3月 関西医科大学耳鼻咽喉科学教室教授 1993年4月 関西医科大学名誉教授
賞	1985年5月 第3回国際フィルムフェスティバルにて銅賞 1991年5月 第5回滲出性中耳炎国際シンポジウム(米国フロリダ)にて“Guest of Honor”を受賞 1992年11月 北京長城病院耳鼻咽喉科名誉教授
学会等役職	1971年~ 日本耳鼻咽喉科学会評議員 1982年~1987年 日本耳鼻咽喉科学会理事 1989年5月 第90回日本耳鼻咽喉科学会総会会長
ロータリー歴	1977年2月9日 守口RC入会 1986~1987年度 守口RC会長 1995~1996年度 第2660地区ガバナー 1996年~ 第2660地区諮問委員会委員 2002~2003年度 第2660地区社会奉仕委員会顧問 2003~2004年度 第2660地区米山奨学部顧問 2003~2004年度 2004年国際大会医療部会会長



熊澤忠躬パスト・ガバナー

熊澤忠躬パスト・ガバナーを 偲んで

国際ロータリー第2660地区
ガバナー・エレクト 高島 凱夫 (大阪中之島 RC)

先生、お前か！とおっしゃらないで下さいね。2月10日の諮問委員会で、告别式での弔辞の話が出まして、パスト・ガバナーの皆様が、それは高島が一番適任だ、と言うことになり、若輩の私がここに立っています。

熊澤先生との最初の出会いは、先生が西ドイツ・ビルツブルグ・ウルシュタイン教授のもとからご帰国になられた頃、私が関西医大5回生の頃かと記憶しています。

それから44年、関西医大耳鼻咽喉科教室、ロータリーで本当にお世話様になりました。特に、熊澤教室創設の頃、先生から第1号の学位を頂戴いたしました。また、2年数ヶ月に及ぶ西ドイツ・ハンブルクへの留学にも行かせていただき、今も楽しい思い出として、家族で話をするのがしばしばあります。2012～2013年度のロータリー研究グループ交換は、そのハンブルク地域第1890地区と行われることが決まっています。

教室での先生との思い出を語り始めると、いくら時間があっても足りません。現在のロータリーでの立場も、先生と横山守雄パスト・ガバナーのご推挙によるものです。

熊澤パスト・ガバナーは、1977年2月に守口ロータリークラブにご入会になられました。チャーターメンバーでいらした、関西医大 岡宗夫元理事長兼学長が、大学をお辞めになるときに、守口市と大学とのパイプ役に、とパスト・ガバナーが引っ張り出されたようです。守口ロータリークラブ創立50周年記念誌を拝読していると、ご入会当時はあまり熱心なロータリアンではなかったようです。ある時「ロータリーの究極の目的は、世界平和である」ということに気づき、共鳴を受けた、とお書きになっています。次年度、30年ぶりの日本人国際ロータリー会長 田中作次さんは「奉仕を通じて平和を」をRIのテーマとされました。パスト・ガバナーがお聞きになったら「我が意を得たり」といろいろお教をいただけたと思います。それを機に奉仕活動に邁進され、フィリピン・ネグロス島への医療奉仕活動、地区委員会への参加などを経て、1995年7月にRI第2660地区ガバナーにご就任されました。ガバナー任期中は、その年の1月に発生した阪神淡路大震災で両親を亡くした子供たちの里親制度を実施されまし

た。その子供たちのほとんどが成人を迎え、昨年最後の一人が昨年成人を迎えたと聞いています。チャリティコンサートも開催されました。

自宅が極々近くということで、何かの会合の折には、樟葉までよく一緒に帰らせていただきました。その車中、大学のこと、ロータリーのことなど、本当にいろいろなことをお教いただきました。しかし、まさか今の立場になるとは思いませんでしたので少し忘れていたこともあります。お教を守りながら、ガバナー年度、人生を乗り切ろうと思いません。「いったじゃろうが！」とお叱りの声が聞こえてくるような気がします…。

昨年11月の関西医大耳鼻咽喉科学教室 開講80周年記念式典の頃、少し体調を崩された折、パスト・ガバナーらしからぬお手紙をいただき「キッと目を見据えて物事に立ち向かう先生の方が良いですよ」と申しあげましたところ「大丈夫、しばらく休んだので、気が湧いてきた」とのお返事をいただき、また12月の地区諮問委員会にもご出席され、お酒も召し上がっていらしたので少し安心していました。1月26日、サンディエゴでの国際協議会から帰国の報告を申し上げ、公式ネクタイをお渡ししたときは「頼むよ。地区大会楽しみだな！」とおっしゃって下さいました。ガバナー年度を見ていただけず、本当に悔しい気持ちです。

お孫さんの医大ご卒業、次年度の地区大会を心待ちにされておられましたのに…。

先生、高原の親父、それに大辻夫妻も最近向こうに行きました。高原亭の面々が麻雀パイを揃えて待っていると思います。3月のPETS、4月の地区協議会、12月の地区大会には、麻雀をちょっと中断し、大阪国際会議場に姿を見せて、出来映えを見て下さい。先生がパスト・ガバナー席にお座りいただいていると思ひ会議を進め、お褒めのお言葉をいただくよう、ホストクラブ全員で立派なものにしたいと思います。

44年間、ご指導ありがとうございました。

安らかに、お休み下さい。

(弔辞を掲載)